


ID <sup>注1)</sup>	191101	公開レベル <sup>注1)</sup>	C	保管形式 <sup>注1)</sup>	電子	保管場所 <sup>注1)</sup>	前回ID	181101
報告書名称 /調査名称	平成30年度 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査						発行年月/報告年月	
							2019年	6月
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 環境省東北地方環境事務所			委託機関				
調査開始年	1999年	6月	調査期間	2018年	6月	～	2018年	11月
調査頻度 <sup>注2)</sup>	毎年	—	調査時期 <sup>注2)</sup>	春	夏	秋		
モニタリング計画	2012年3月	策定	区分 <sup>注2)</sup>	ⅡA	大区分 <sup>注2)</sup>	1	小区分 <sup>注2)</sup>	(1)
調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<input type="checkbox"/> 調査項目 ブナ林動態調査 <input type="checkbox"/> 調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマガラサイト、尾根サイト） <input type="checkbox"/> 調査面積 サイト毎に100m×100m <input type="checkbox"/> 調査手法 種子・リター調査以外は年1回実施、種子・リター調査は6月にリターラップを設置し7～11月リター回収、11月リターラップ撤収。 ※平成27年度に関しては道路状況・天候不順の影響でリターラップの設置を9月に行い、10月～11月にリターの回収を実施した。それ以外の調査項目に関しては例年通りに実施 <成木>・・・胸高直径 5cm 以上の樹木を対象 胸高直径、位置 <低木>・・・樹高 50cm 以上、2m×5m 枠×10 個/サイト 樹高、地際直径 <ササ>・・・2m×5m 枠×10 個/サイト 稈長、地際直径（新規のみ）生死、群落高 <実生>・・・高さ 50cm 未満、1m×1m 枠×40 個/サイト 樹種、生死、高さ <種子・リター>・・・0.5 mのリターラップ×20 個/サイト 1 か月ごとに回収、仕分け 種子数（状態：未熟、虫食い、しいな、健全）、リター量 <光条件>・・・全天写真 実生枠（1m×2m）につき一地点、地表、ササの上（2m）				
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>								
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<p>&lt;ブナ林&gt;                  3サイトとも典型的な日本海側のブナ林の特徴を示していた。クマガラサイトの半分は地すべり跡地にあり、胸高直径最大約 60cm でサイズのそろったブナが多く、一斉に成立したことを示唆する。尾根サイトでは、最大 120cm にもおよぶ大径のブナがある一方、過去の倒木によって林冠ギャップとなった部分も多いため、小径の樹木密度が非常に高い分布となっている。ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造といえる。2018年は台風21号の影響でマザーツリーが折れるなど、被害は他年に比べると大きかったと思われるが、プロット内では明確な影響は見られなかった。</p> <p>&lt;低木ササ&gt;                  いずれの調査区でも、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバといった低木性樹種が大部分を占めている。低木ではどのサイトでも、2006 年から増加傾向を示している。ササについては尾根サイトで2006 年から増加傾向を示している。これは、2004年および 2005 年にこの地方を通過した台風により、林冠木が倒れ、林冠ギャップが形成されたことと対応している。（図なし）</p> <p>&lt;ブナ種子&gt;                  2018年は、健全な種子が尾根サイト169個/m<sup>2</sup>、クマガラサイト203個/m<sup>2</sup>、ヤナダキサイト154個/m<sup>2</sup>と尾根サイトでは、2000年の大豊作時（567個/m<sup>2</sup>）に次ぐ落下量、クマガラサイトでは、2000年（430個/m<sup>2</sup>）、2002年（256個/m<sup>2</sup>）に次ぐ落下量、尾根サイトでは、2000年（150個/m<sup>2</sup>）の落下数とほぼ同数の落下数となった。これにより、2006年から2017年までの12年間、2013年を除き凶作、大凶作が続いてきたが久しぶりの豊作となった。</p> <p>&lt;実生&gt;                  各サイトともブナの豊作年の翌 2001年に密度が最大となったが、大量に加入したブナ実生も、1～2年でほとんどが消失し実生密度の増加はごく一時的なものにとどまった。2014年は2013年に健全種子が落下したため、当年生のブナ実生が3サイト平均87個/100m<sup>2</sup>に増加した。2018年のブナの当年生実生は各サイトとも0個から0.1個/100m<sup>2</sup>であったが、2018年は上記の通り、ブナ種子が豊作だったので、2019年の当年生のブナ実生数は増加すると予想される。</p>								
世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局長 石橋史朗 office@monitoring.sakura.ne.jp				<<原本（データ）の帰属について>>				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

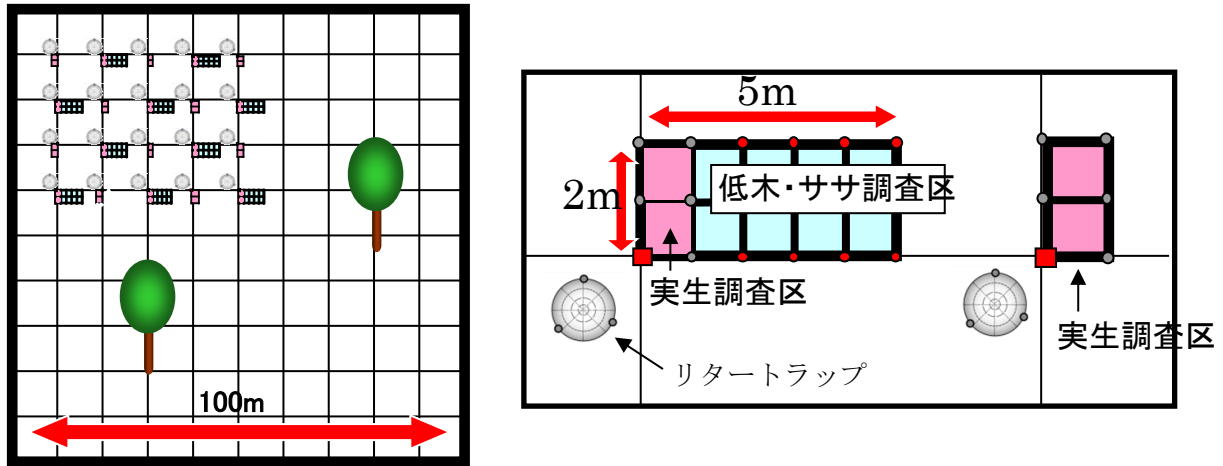


図. コドラート概要図

